

第16回教育研究審議会

議事概要

日時 令和元年 12 月 18 日（水） 午後 4 時 00 分～午後 6 時 58 分

場所 本部棟 3 階 大会議室

出席者 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、新保祐司副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、竹島達也大学院研究科委員長、西尾理学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、平野耕一学長補佐、樋口雄人学長補佐、加藤敦子国文学科長、Hywel Evans 英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、野中潤図書館長(兼)情報センター長、廣田健教職支援センター長、茂木秀昭国際交流センター長、豊嶋朗子語学教育センター長、市原学入学センター長、石川和広経営企画課長、藤江隆学生課長

欠席者 竹下勝雄地域交流研究センター長、矢嶋亘総務課長

福田学長より挨拶

2 議 事

(1) 特任教員の昇任について（国文学科）

○担当から資料 1-1 に基づき説明。→2 週間の閲覧に供し、次回投票する。

「公立大学法人都留文科大学特任教授等選考基準」により教授としての基準を満たしており、主要業績の論文 3 編についても教員選考委員会において高く評価された。このため教員選考委員会は全員一致で特任教授（Aタイプ）とすることを提案する。

(2) 学長裁量による採用計画書（特任教授等）について

○担当①及び担当②から資料 2 に基づき説明。→教員選考委員会を組織し審査をする。

（教員選考委員会委員は議事 10 とあわせて決定する。）

◇対象者：新規採用 所属：地域社会学科 採用形態：特任教員（Cタイプ）

採用目的：外国立タマサト大学における本学学生の研修受け入れに関するコーディネート

雇用期間：令和 2 年 4 月 1 日から 1 年。

(3) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（国文学科）2 件

○担当から資料 3-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇近代文学概論 I・II、近代文学概論 ◆定年退職者に伴う担当科目調整のため

◇日本仏教史 I・世界と自己 III ◆前任者退職のため

○担当から資料 3-2 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定 1 年間）。

◇日本近代文学会・昭和文学会・日本文学協会・現代文学史研究会

新規採用 ランク B

→「都留文科大学非常勤講師の採用人事の手続きに関する内規」第 3 条第 1 項第 5 号に

該当となっているが、該当者は以前大学で助教はしていたが、現在は高等学校非常勤講師であり、「担当予定の科目と同じ分野の科目を担当している者」には該当しない。またシラバスから考えると相当の経験がある方でないと困難であると考えられる。

→教職課程の科目でありシラバスの変更はできず、今回は該当するシラバスを担当できる方に限定して検討し、学科で問題ないと判断した。

→紹介した立場であり同じ研究会に所属していたため、よく存じているが、神奈川県下でもトップ校である高校で教壇にたっており、この方以外に誰ができるのかと聞きたいくらいの気持ちでいる。また、教職課程については、今後、他大学等での非常勤講師経験がない方も採用していくことも検討した方が良い。

◇日本哲学会・新プラトン主義協会・西田哲学会
新規採用 ランク A

(4) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（地域社会学科）1件

○担当から資料4-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇質的調査法・資料調査法Ⅱ ◆現担当者退職のため

○担当から資料4-2に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。→継続審議。

◇日本社会学会・日本保健医療社会学会・首都大学東京社会学会
採用候補者 ランク B

→担当科目関連の資格を持っているが、担当科目講師歴がないが問題ないか。

→学科内でも議論があつたが、研究手法が担当科目と一致しており、現担当者からの紹介でもあるため問題ないと判断した。ただ、モンゴル出身であるため日本語能力については不明である。

→比較文化学科の科目も担当するため、比較文化学科教務委員と協議済みである。

→日本語検定1級であるが、授業するにあたり日本語能力は問題ないのか。

→学科で直接面接などがないため、面接による確認後再度提案するものとする。

(5) 非常勤講師採用候補者に係る資料について（英文学科）1件

○担当から資料5に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定1年間）。

◇全国語学教育学会・大学英語教育学会・欧州言語学会・日本英語学会など
新規採用 ランク S2

(6) 非常勤講師採用候補者に係る資料について（比較文化学科）2件

○担当から資料6-1に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定1年間）。

◇新規採用 ランク A

→シラバスについて一部追記してもらうものとする。

○新規採用から資料6-2に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定1年間）。

◇アジア政経学会・日中関係学会・中国現代史研究会・中国経済経営学会
新規採用 ランク A

(7) 特任教員の任期更新について（英文学科）2件

○担当から資料7に基づき説明。→提案通り承認。

◇Cタイプ・R2.4.1から1年間

◇Cタイプ・R2.4.1から1年間

- (8) 特任教員の任期更新について（国際教育学科）4件
- 担当から資料 8-1 に基づき説明。→期間を1年に変更し承認。
 - ◇Bタイプ・R2.4.1 から2年間
→Bタイプで5コマ担当しているため、期間を1年としてAタイプへの移行も検討した方が良いのではないかと。
 - 担当から資料 8-2 に基づき説明。→提案通り承認。
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
 - 担当から資料 8-3 に基づき説明。→提案通り承認。
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
 - 担当から資料 8-4 に基づき説明。→提案通り承認。
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
- (9) 特任教員の任期更新について（キャリア支援センター）2件
- 担当から資料 9 に基づき説明。→提案通り承認。
前回の教育研究審議会で審議いただいた案件であるが、キャリア支援センター運営委員会での審議前であり、審議の結果前回と同様のまま提案しなおすものとさせていただいた。
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
 - ◇Cタイプ・R2.4.1 から1年間
- (10) 令和元年度昇任人事に係る「教員選考委員会」について
- 担当から議事 2 を含めると 3 件である説明。
 - ◇地域社会学科①講師から准教授
 - ◇地域社会学科②講師から准教授
 - ◇地域社会学科③特任教員(Cタイプ)採用（議事 2）
 - 上記 3 件の教員選考委員会委員決定
- (11) 令和2年度 開講科目について（地域社会学科・社会学科）
- 担当から資料 11 に基づき説明。→提案どおり承認。
- (12) 令和2年度開講科目について（留学生用）
- 担当から資料 12 に基づき説明。→提案どおり承認。
- (13) 令和2年度 非常勤講師授業担当科目について（取消第3回）
- 担当から資料 13 に基づき説明。→提案どおり承認。
- (14) 令和2年度 非常勤講師授業担当科目について（取消第4回）
- 担当から資料 14 に基づき説明。→提案どおり承認。
- (15) 教員の移籍について
- 担当から資料 15 に基づき説明。→提案のみとして継続審議。
→「教育研究審議会は、移籍が必要と認めた場合には・・・」とあるが、認めない場合もあるとの理解でよろしいかと。
→そのとおりである。なお、各学科での意見もあると考えられるため、学科で原案について意見を集約していただきたい。

(16) 特任教員 AB の継続について

○担当から資料 16-1 及び資料 16-2 に基づき説明。→審議の結果を踏まえ、継続も含め該当者に提示することで承認。

◇学校教育学科

→労働条件のバランスを勘案すると提案どおりでやむを得ないを考える。

→課程認定担当者の入れ替えについては問題がないのか。また、該当者本人たちは最長の 5 年と考えている可能性があるが、契約時に明確な更新についての説明はしてあるのか。

→今回の契約更新をしない理由としては、勤務状況なのか当該特任教員ポストの削減なのか明確にする必要がある。

→本日は更新しないという決定をせず、更新するのであれば、明確に担当コマ数や出校日、また、授業以外の職務についても説明を行い該当者と協議することによろしいか。

→更新するのであれば、勤務実績の確認などのため期間を 1 年とした方が良いのではないか。

○担当から資料 16-3 に基づき説明。→審議の結果、提案通り承認。

◇語学教育センター

→該当者から無期転換労働契約に係る書類の提出があったとのことである。

→無期転換書類の提出があったが、現状の業務内容が無くなった場合の取扱いになるため検討中である。

→当初の採用計画に基づく事業は終了したとの解釈であるため原則通り 5 年で終了となる。なお、当初の採用計画以外で該当者が必要であれば検討する必要もある。

→今後の必要な業務について新たな募集とすることは可能であるか。

→提案していただく事は可能である。ただし、雇用形態などについては様々な形態があるため検討は必要となる。

(17) フランストゥルーズ大学との交換留学協定について

○担当①及び担当②（学校教育学科）から資料 17 に基づき説明。→承認。

(18) その他 ○なし

3 報 告

(1) 2021 年度 学外研究について

○担当から 2021 学外研究者について報告。

◇国文学科 2 名（1 年・半期）・学校教育学科 1 名（1 年）

(2) その他 ○なし

4 その他 ○なし

5 閉 会

以 上